

Japanese Graded Readers

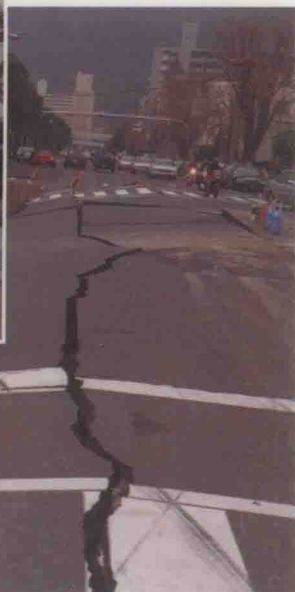
レベル別
日本語多読
ライブラリー



にほんごよむよむ文庫

レベル **3** vol.3 **15**

じ しん つ なみ
地震と津波



作 = 松田 緑

挿絵 = 早川 修

監修 = NPO法人日本語多読研究会

にほんご よむよむ文庫 レベル 3

じ しん つ な み
地震と津波

作（さく）：松田 緑（まつだ みどり）

挿絵（さしえ）：早川 修（はやかわ おさむ）

監修（かんしゅう）：NPO 法人 日本語多読研究会（にほんご たどく けんきゅうかい）

<監修者紹介>

NPO 法人 日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

当研究会は、学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が集まって、2002年1月に発足しました。2006年9月にNPO法人になりました。「レベル別読みもの」を開発したり、それらを使った「多読」の授業の実践・研究をしたりしています。http://www.nihongo-yomu.jp

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

【レベル3】 vol.3

地震と津波

2009年4月27日 初版 第1刷 発行

作：松田 緑 (日本語多読研究会会員・日本語教師)

作画：早川 修

監修：NPO 法人 日本語多読研究会

ナレーション：小金澤 篤子／山中 いっとく

録音・編集：スタジオグラッド

デザイン・DTP：仙台 忍

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町2-6

TEL.03-3267-6864 FAX.03-3267-6867

http://www.ask-digital.co.jp

http://www.ask-digital.co.jp/tadoku (「にほんご よむよむ文庫」公式サイト)

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

©NPO 法人日本語多読研究会 2009

Printed in Japan ISBN978-4-87217-703-9

にほんご よむよむ文庫 レベル 3

じ しん つ なみ
地震と津波

作 (さく) : 松田 緑 (まつだ みどり)

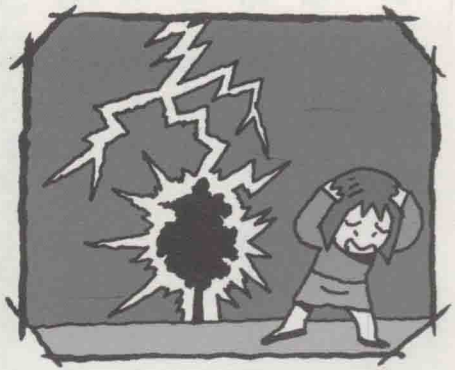
挿絵 (さしえ) : 早川 修 (はやかわ おさむ)

監修 (かんしゅう) : NPO 法人 日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

じ しん
地震

「地震、^{かなり}雷、^か火事、^{おやじ}親父」。これは、^{なん}何でしょう？

これは、^{むかし}昔から^に日本人が、^{こわ}怖いと^{おも}っている4つのものです。



その中^{なか}でも、一^{いち}番^{ばん}怖^{こわ}いと思^{おも}っているのが地震^{じしん}です。

日本^{にほん}では、昔^{むかし}から地震^{じしん}が^{おお}多いからです。



撮影：大木本美通 提供：神戸大学附属図書館震災文庫

▲
はんしんあわじ だいしんさい
阪神淡路大震災のとき
ひがいの被害 ▶



撮影：大木本美通 提供：神戸大学附属図書館震災文庫



写真提供：国立科学博物館

◀ かんとうだいしんさい
関東大震災のとき
ひがいの被害



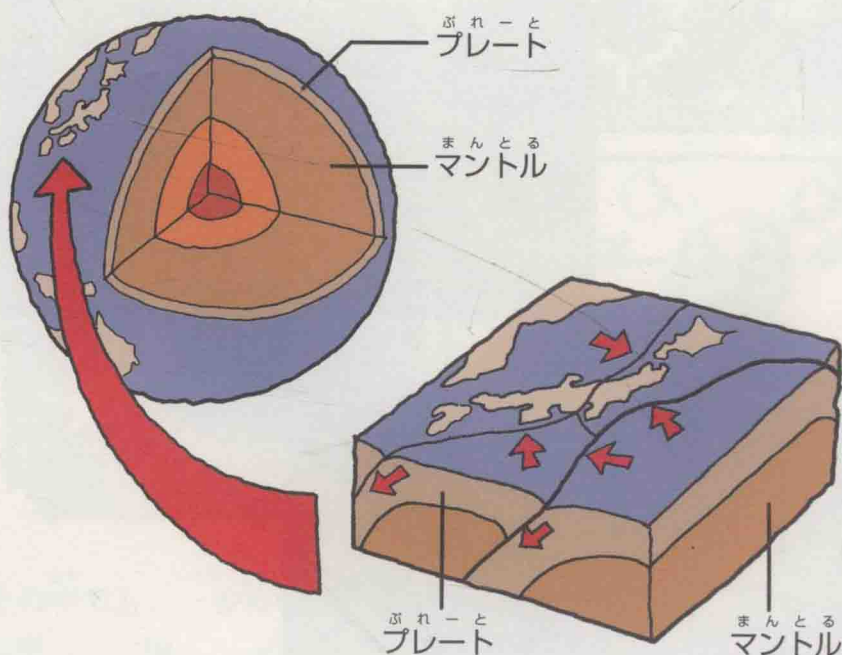
じしん お 地震はこうして起きる

じしん
地震は、どのようにして起きるのでしょうか？

ちきゅう き なか み
地球を切って、中を見てみましょう。

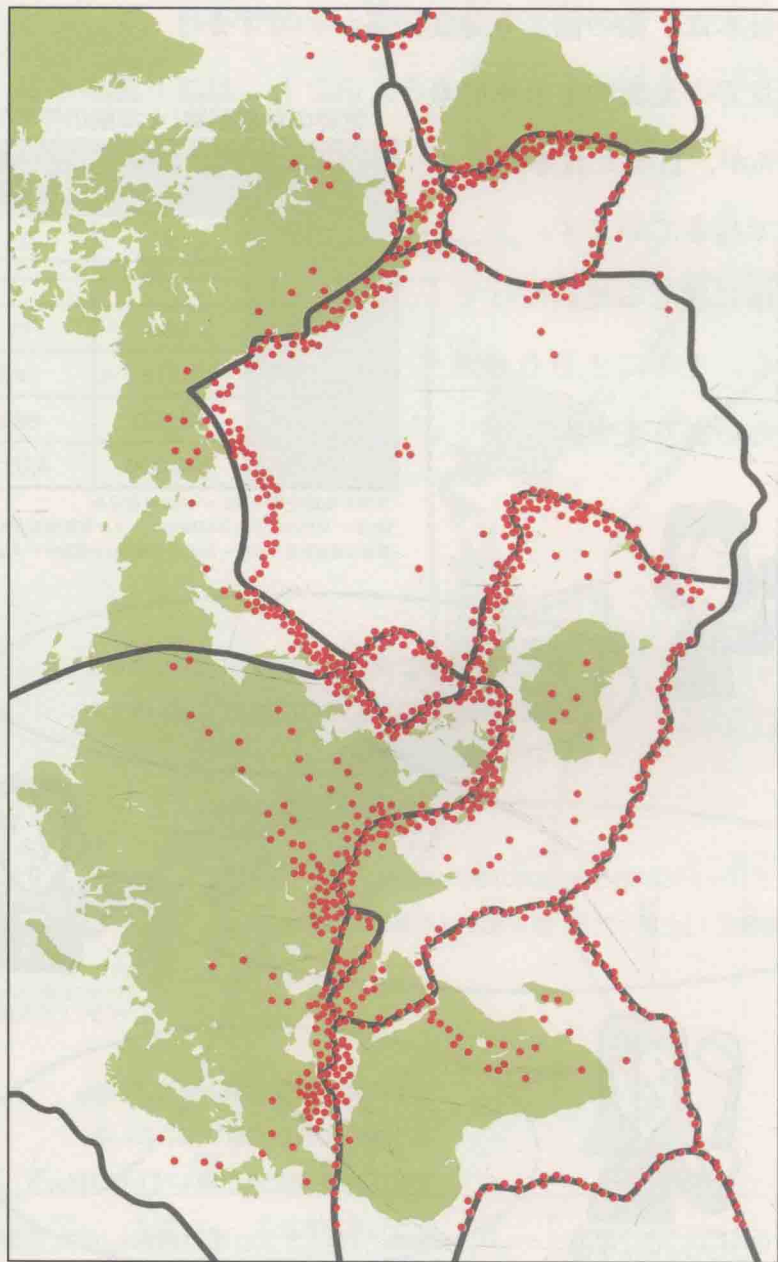
ぶれーと
「プレート」がどこにあるか、わかりますか？

ぶれーと すこ うご じしん ぶれーと
プレートは、いつも少しずつ動いています。地震は、プレート
とプレートがぶつかったり、おしたりして起きます。



じしん みな しつもん こた
それでは、地震について、皆さんの質問に答えていきましょう！

世界のプレートと 地震



● 今までの大地震があったところ ぶれと プレートがぶつかっているところ

Q: 日本は、他の国より地震が多いのですか？

A: 世界の地震の10~20

%が、日本と日本の近く
で起きています。

体に感じる地震だけで

も、1年に2,000回ぐ
らいあります。

世界の地震回数(1年間の平均)

マグニチュード (地震の大きさ)	世界の地震回数 (1年間平均)	日本の地震回数 (1年間平均)
M8.0以上	1	0.1
M7.0-7.9	17	2
M6.0-6.9	134	17
M5.0-5.9	1,319	123
M4.0-4.9	13,000	895
M3.0-3.9	130,000	4,073

〈世界の地震回数〉M3.0～M4.0は推定値

M5.0～M8.0は1900年以降のアメリカ地質調査所のデータ

〈日本の地震回数〉1996～2005年の気象庁の震源データより計算



かんこくじんりゅうがくせい
韓国人留学生

きのう よる へや べんきょう じしん
昨日の夜、部屋で勉強していたら、地震がありました。
じしん はじ こわ な
地震は初めてでした。怖くて泣いてしまいました。

ここ でばーと たてもの ゆ
午後、デパートにいるとき、建物が揺れました。
「あ、地震だ!」と思ったら、体が動かなくなっていました。



いたり あじかんこうきゃく
イタリア人観光客



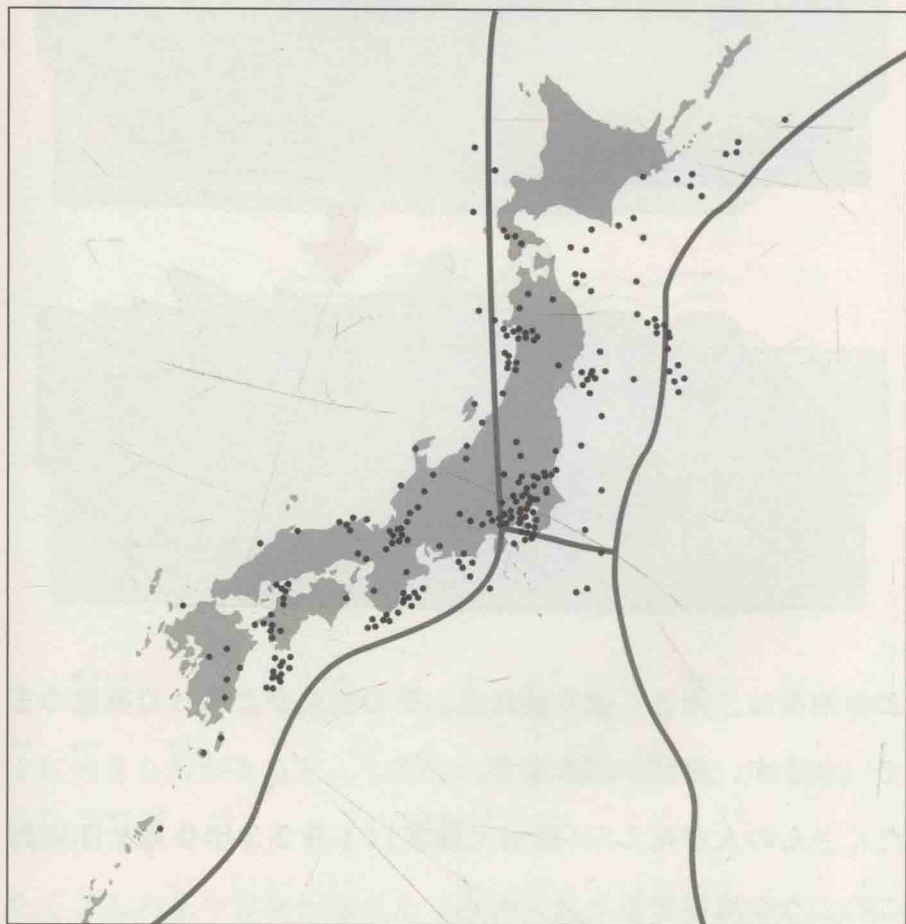
の ろ う ェーじんしゅふ
ノルウェー人主婦

にほん き じしん
日本に来てすぐ、地震がありました。
わたし いそ いえ と だ
私は急いで家から飛び出しました。
にほんじん おどろ
でも、日本人はだれも驚いていません。
どうしてですか？

Q：どうして、日本ではそんなに地震が多いのですか？

A：日本の周りには、4つの大きなプレートがあるので、地震が起きやすいのです。

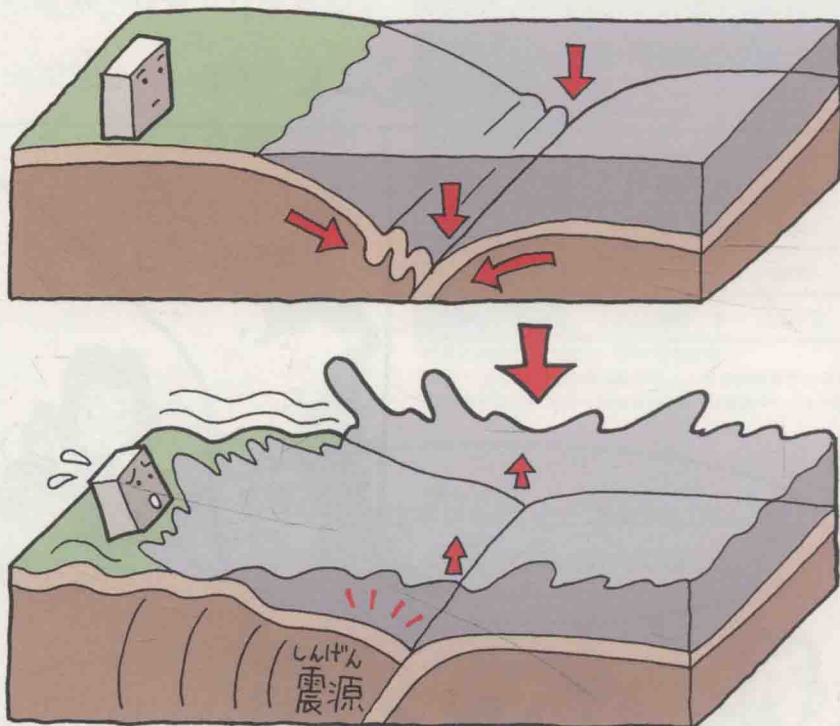
日本のプレート



● 今まで大きい地震があったところ — プレートがぶつかっているところ



うみ お じ しん 海で起きる地震

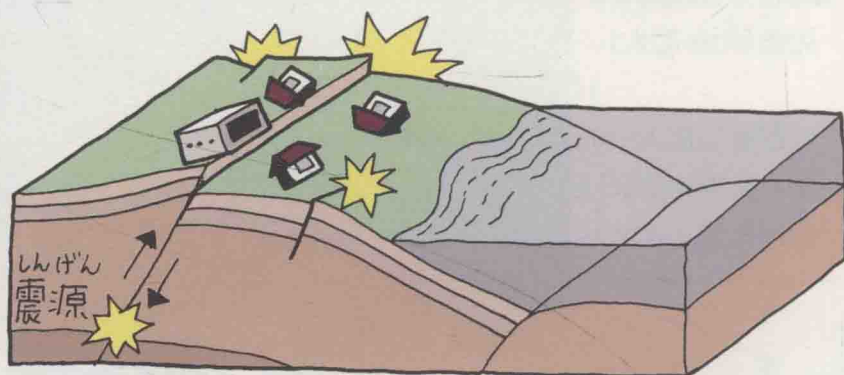
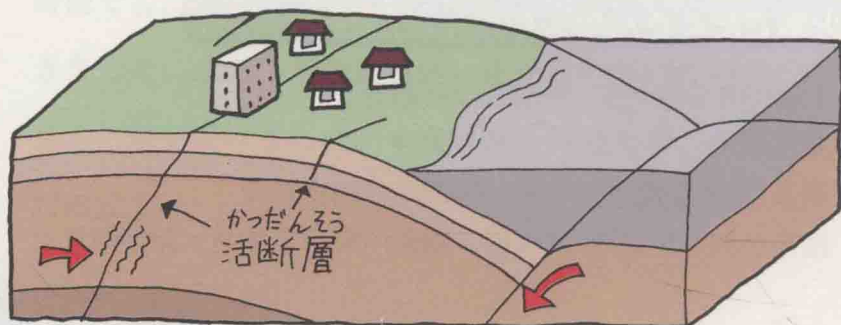


この地震は、大きく強く揺れて、その揺れが、ゆっくり遠くまでいきます。津波が起きます。

たくさんの人が死んだ「関東大震災」(1923年9月1日)は、このような地震でした。



りく お じしん 陸で起きる地震



この地震は、あまり遠くまでは揺れません。しかし、活断層の上
に大きな町があると、人が死んだり、家が壊れたりするなど、
被害は大きくなります。

たくさんの家や建物が壊れた「阪神淡路大震災」（1995年
1月17日）は、このような地震でした。



忘れられない大きな地震

火事でたくさんの人が死んだ「関東大震災」

1923年9月1日 午前11時58分

震度 7 マグニチュード 7.9

震源(地震が起きた場所): 神奈川県相模湾沖

被害があった場所: 東京都/神奈川県/千葉県/静岡県など

被害:

・死者(死んだ人)/行方不明者(いなくなった人)

…100,000~140,000人

・けがをした人…100,000人以上

・壊れた家…250,000軒以上

・焼けた家…440,000軒以上

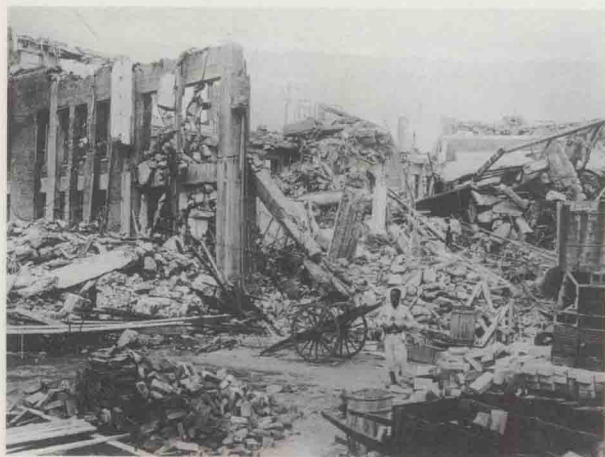


● 火事があったところ

● 家が壊れたところ

Q：どうして、そんなにたくさんの人が死んだのですか？

A：地震が起きたのは、午前11時58分。ちょうど昼ご飯の時間でした。どこの家でも火を使っていたので、火事が起きました。また、その日は強い風が吹いていたので、たくさんの家が焼けました。80～90%の人が、火事で死んだのです。



とうきょうえきまえ
◀ 東京駅前のビルも
このように壊れた

とおや
遠くまで焼けてしまった
ぎんざまち
銀座の町 ▶



写真提供：国立科学博物館

家が壊れてたくさんの人が死んだ「阪神淡路大震災」

1995年1月17日 午前5時46分52秒

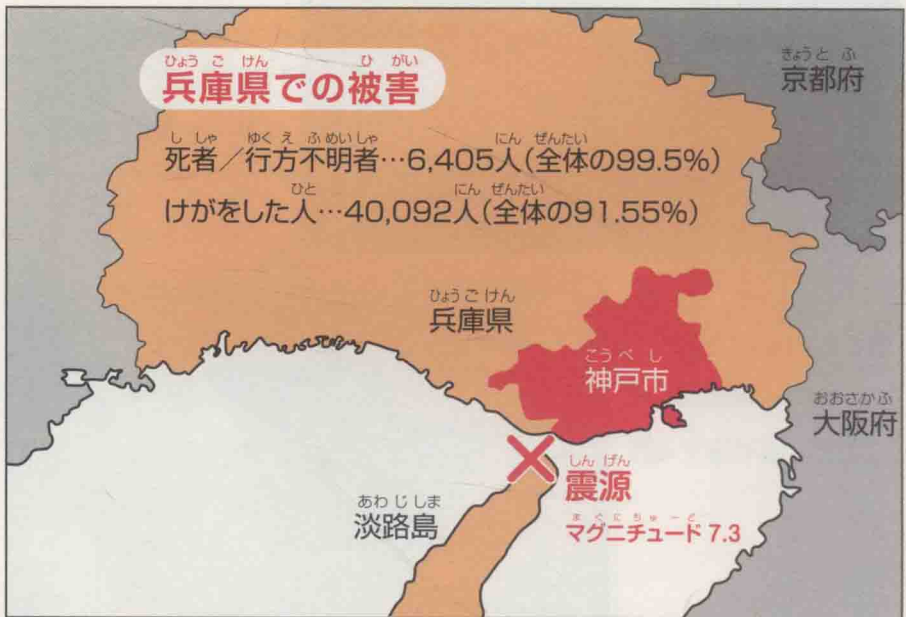
震度 7 マグニチュード 7.3

震源: 兵庫県淡路島北部

被害があった場所: 兵庫県 / 京都府 / 大阪府など

被害:

- ・死者 / 行方不明者…6,437人
- ・けがをした人…43,792人
- ・壊れた家…250,000軒以上
- ・焼けた家…7,000軒以上



数字は「阪神・淡路大震災の死者にかかる調査について(2005年12月22日記者発表)兵庫県」による

神戸市の被害が一番大きかった

Q：どんな被害が、ありましたか？

A：古い家や建物や道路が、たくさん壊れました。

死んだ人の80%が、家が壊れたり倒れた家具の下になって死にました。朝早い時間でしたから、家で寝ている人が多かったのです。



撮影：和田幹司

提供：神戸大学附属図書館震災文庫



撮影：大木本美通

提供：神戸大学附属図書館震災文庫



ボランティアが来た！

この地震が起きたことを知って、神戸に本社があるスーパーマーケットは、兵庫県にある店をすぐに開けて、食べ物などを安く売り始めました。

地震の3時間後には、コンビニエンスストアも、ヘリコプターで、水や食べ物を兵庫県の店に運びました。

また、日本中からたくさんの人が来て、被害にあった人たちに助けました。

このようなボランティアの人たちの数は、1日平均2万人。3か月間で117万人にもなりました。

その後、地震があった1月17日は、「防災とボランティアの日」と決められました。



ボランティアをした人の話（神戸大学学生・21歳）

地震が起きたとき、私は、神戸市にある学生寮（学生たちが住んでいるところ）で寝ていました。重い電子レンジが、布団の上に落ちましたが、けがはしませんでした。私は、他の学生たちと一緒に、被害にあった人たちに、水や食べ物を運んだり、ご飯を作ったりしました。また、被害にあった家の中を片付けたり、学生寮の風呂を使ってもらったりしました。このような生活が2か月続きました。